

連載

地域包括ケアの今とこれから

第5回

地域電子カルテを活用した多職種相互の連携〜山形県・鶴岡地区医師会の取組み〜

2025年問題を穏やかにクリアするために、各地域・各機関では地域包括ケアシステムの構築にむけてさまざまな取組みを行っている。4月号からスタートした本連載では、これまでに国や行政、地域包括支援センター、日本看護協会における取組みを紹介してきた。今回は、都市医師会の取組みについて、山形県鶴岡市で活動している一般社団法人鶴岡地区医師会・地域医療連携室ほたるの遠藤貴恵氏にご紹介いただいた。

1 地域医療連携室ほたるの役割

東北南部に位置する山形県鶴岡市にある鶴岡地区医師会では、健診センターの開設に始まり、介護保険の運用開始以前から多

くの施設を開設・運営してきた。訪問看護ステーションや在宅サービスセンター、回復期リハビリテーション病院、ケアプランセンター、介護老人保健施設、地域包括支援センターなど、超高齢社会を見据えて早い段階から活動しています。また、地域医療の質向上のために、地域電子カルテ「Net4U」の導入や、電子化した地域連携バスの運用、在宅緩和ケア普及のための取組み（OPTIM）などを行っています。

また、平成23年度と平成24年度には在宅医療連携拠点事業を受託し、当医師会内に在宅医療連携拠点事業室ほたるを設置し活動してきました。在宅医療連携拠点事業とは、厚生労働省による在宅医療の課題解決を目指す事業で、在宅医療のなかでの多職種連携のコーディネートを担当しています。在宅医療連携拠点事業室ほたるでは、看護師、相談員、事務員の3名を配置し、「多職種連携の繋ぎ役」として、利用者・家族が安心して過ごせる在宅医療の支援体制を構築する」という目標のもと、地域の課題に対する具体的な実施内容をまとめた「アクションプラン」を作成し進めてきました。現在は、地域医療連携室ほたる（以下、ほたる）に改称し、スタッフ構成の変更はありませんが、県の補助を受けながら活動を継続しています。今や、地域における多職種の繋ぎ役として、各職域から頼りにされる存在となっています。

2 地域電子カルテ「Net4U」の活用

ほたるが積極的に取り組んでいる普及・啓発活動の一つに、地域電子カルテ「Net4U」医療と介護を繋ぐヘルスケア・ソーシャル・ネットワーク「Net4U」があります。「Net4U」とは、医師会内に設置したサーバーにて、患者（利用者）情報やアプリケーションを一括管理するクラウド型のシステムです。14年にわたる運用実績をもっており、地域電子カルテの草分けでもあります（図参照）。

「Net4U」は在宅医療分野で特に活用されていますが、利用することによって多職種相互の連携がより円滑に進む事例を数多く経験しています。特に、がん末期の在宅緩和ケアにおいては、基幹病院の緩和ケア専門医が「Net4U」に参加していることにより、専門的なアドバイスをリアルタイムに受けることができ、緩和ケアに慣れない在宅主治医や訪問看護師の安心感に繋がっています。緩和ケア以外においても、医師や訪問看護師、薬剤師、ケアマネジ

ヤーなどの在宅医療のチームが、積極的に活用しているケースが多くみられます。

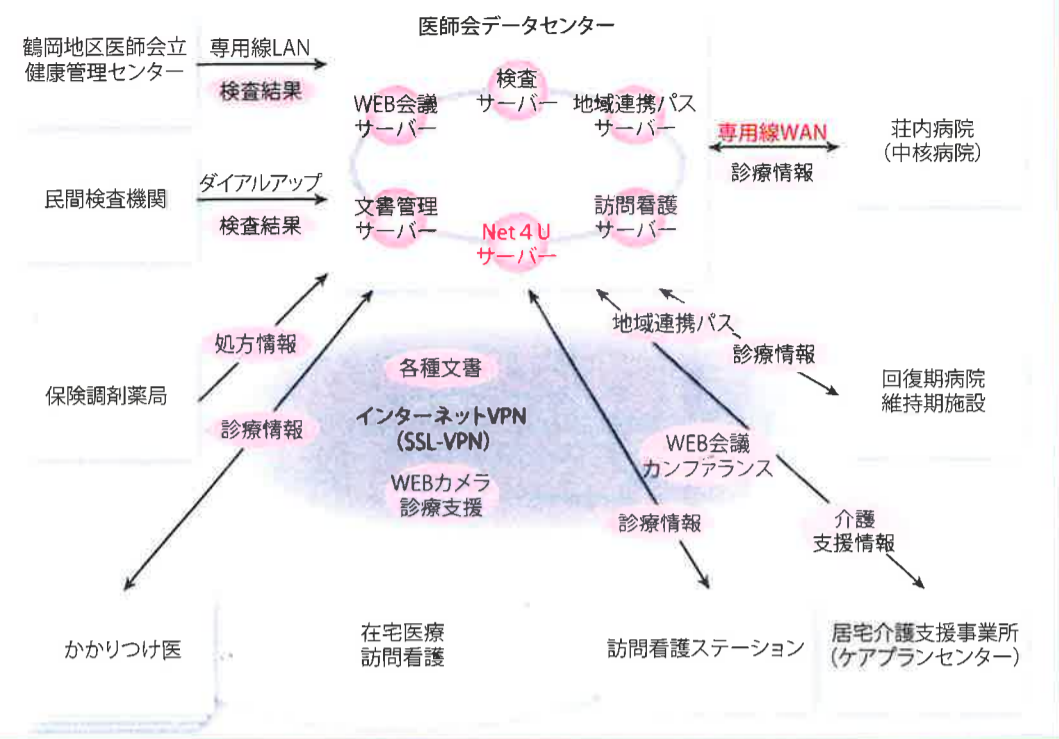
3 顔の見える関係をつくる地域包括ケア

「Net4U」のような情報共有ツールの普及・定着は、どの地域においても大きな課題となっています。ITツールありきではなく、お互いの顔がわかり、「この人だから伝えたい」という思いが叶う地域でなければなりません。そのため、「顔の見える関係づくり」が大切です。また、

在宅医療チームの大きな役割を担う訪問看護師の業務負担軽減に繋がるものであるべきです。そして、それらを一緒になって考える場づくりが重要と考えます。

超少子高齢化が急速に進むなか、地域包括ケアシステムへの取組みがますます重要となっています。地域包括支援センターの補完的役割や地域ケアマネジメントのエンジンとなるように、ほたるがもつ多職種連携のコーディネート機能や、顔の見える関係構築の場づくりにも今後取り組んでいく予定です。

図 鶴岡地区医療介護情報ネットワーク概要図



「Net4U」は在宅医療の分野で特に活用されていますが、利用することによって多職種相互の連携がより円滑に進む事例を数多く経験しています。特に、がん末期の在宅緩和ケアにおいては、基幹病院の緩和ケア専門医が「Net4U」に参加していることにより、専門的なアドバイスをリアルタイムに受けることができ、緩和ケアに慣れない在宅主治医や訪問看護師の安心感に繋がっています。緩和ケア以外においても、医師や訪問看護師、薬剤師、ケアマネジ